

リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）は、無人の古紙回収ステーション「eポスト」の管理に用いる自社製ソフトの販売を強化している。本業のノウハウを生かして回収用コンテナなどとセ

ットで提案。ペーパーレス化の進展に伴う古紙量の減少で回収競争が過熱する中、新規参入を目指す岡山県外の同業他社を中心に支援し、2年後には5倍の20社に導入したい考え。（橋本直樹）

古紙回収ソフト販売強化

平林金属 eポスト管理用



eポスト事業は2018年に同社がスタートした。集積コンテナとポイントカードやクオカードを発券する専用端末を設置。利用者が新聞や雑誌、段ボールを入れると自動で計量し、重さに応じてポイントを加算する。ソフトは1日や1カ月ごとのデータをクラウド上で管理でき、コンテナが満杯になったら収集を促すアラームが鳴るなど、手間やコストがかか

国内ではペーパーレス化が

古紙量減で競争奪過熱 コンテナとセット提案

クラウド上で回収データなどを集約するeポストの管理画面

クラウド上で回収データなどを集約するeポストの管理画面

平林金属は22年、ソフトを共同開発したシステム会社から権利を引き継ぎ、システム部署を新設。ポイント管理する会員証にスマートフォン向けアプリを導入するなど改善を重ねる。同部署にはデザインを置き、看板やチラシの作製を可能に。場所の広さや形に応じた設置方法も提案するなど、事業の立ち上げにワンストップで対応できることを強みとする。

eポストは無人で管理でき、電子マネーなどに交換できるポイントがつくため、消費者への訴求効果が高いのも特徴。平林金属は「回収に力を入れるリサイクル業者だけでなく、来店のきっかけになる小売店などにも売り込み、一般消費者のリサイクル意識の向上につなげたい」としている。

同社は1956年創業、60年設立、資本金9980万円、グループの売上高は265億2400万円（2023年12月期）、従業員数は518人。



ドラッグストアの駐車場に設置した平林金属のeポスト